

第3章 教育・文化

この章の施策の推進方針

「安全・安心なまち」と実感できるように

- ・ 学校生活や登下校時の子どもの安全・安心を守るための取組を学校・家庭・地域が一体となって推進します。

「子育てがしやすいまち」と実感できるように

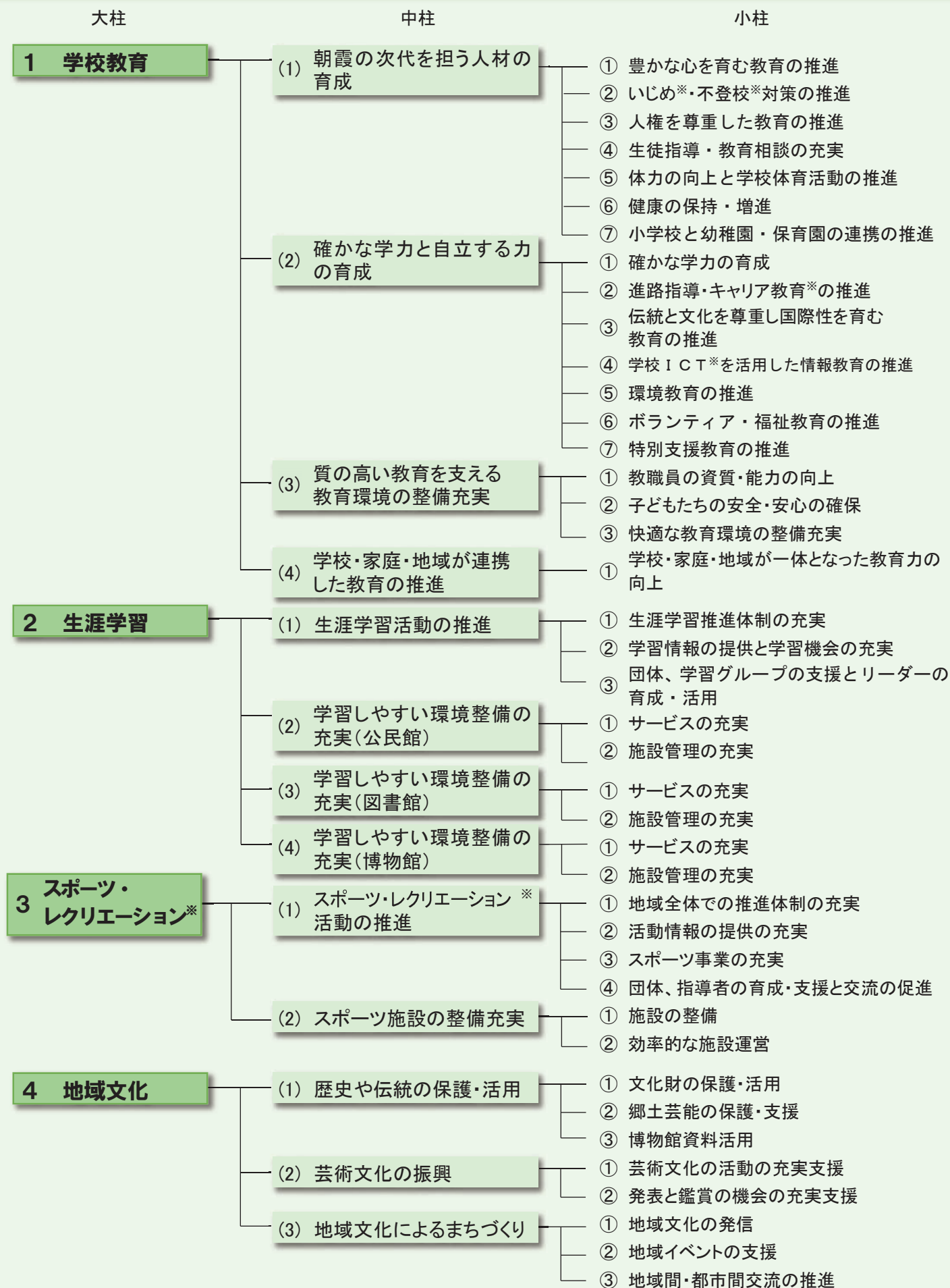
- ・ 質の高い教育を受けられ、子どもたちがのびのびと学び、生きる力が育まれるよう、教育の内容や教育環境の充実を図ります。

「つながりのある元気なまち」と実感できるように

- ・ 地域の文化や行事の活性化を図るとともに、朝霞の魅力を市内外に発信します。

「自然・環境に恵まれたまち」と実感できるように

- ・ 朝霞の貴重な文化財や自然環境について学ぶ機会を積極的に提供し、身近な環境に対する理解を深めます。



1 学校教育

- (1) 朝霞の次代を担う人材の育成
- (2) 確かな学力と自立する力の育成
- (3) 質の高い教育を支える教育環境の整備充実
- (4) 学校・家庭・地域が連携した教育の推進

現状と課題

- 本市では、一人一人の児童生徒へきめ細かな指導を行うため、生徒指導や教育相談体制の整備充実、地域人材の活用、特別支援教育の充実や快適な教育環境を目指し、自校式給食室の設置、老朽化した学校の改築やエアコンの整備、柔軟な通学区の運用などに取り組んできました。子どもたちの中でも、規範意識や公共心の低下による問題行動の増加、人と人との関わりの希薄化による、人間関係をつくる能力や自己表現力の低下など、様々な問題も起こっています。今日の多様化・複雑化する社会に対応して、朝霞に住み、日々成長する子どもたちが、心豊かに確かな学力を身につけ、生きる力を育むことができるよう学校教育の充実が求められています。
- 未来を生きる子どもたちには社会的に自立する力が不可欠です。先行きが不透明な社会で子どもたちが将来職に就き、働き、社会の形成者としての役割を果たすためには、基盤となる自己肯定感や規範意識をしっかりと持たせることなどが必要です。そのためには、子どもたちが人との関わりの中で自分の価値を見出し、社会での職業や勤労について理解し、働くことについてしっかりとした認識を持てるよう、学校が家庭や地域と連携して教育をすることが求められています。

目指す姿

子どもが豊かな心と健やかな体を持つとともに、社会で主体的・創造的に生きていくための確かな学力と自立する力を身につけ、質の高い教育を支える教育環境が充実したまちを目指します。また、学校・家庭・地域が相互に連携・協力して、地域全体の教育力が向上しているまちを目指します。



朝霞第五小学校

具体的な施策

（１）朝霞の次代を担う人材の育成 主担当課：教育指導課

①豊かな心を育む教育の推進

- 校内体制を整備し指導計画を活用、さらに改善することで道徳教育の充実を図り、他を思いやる心をはぐくみます。また、挨拶や礼儀といった規律ある態度を育成します。また、読書活動や様々な体験活動に参加する機会を増やします。

②いじめ＊・不登校＊対策の推進

- 家庭・地域・関係諸機関との連携を強化しながら教育相談体制を充実し、いじめ＊防止や不登校＊の解消に向けた組織的な対応を推進します。

③人権を尊重した教育の推進

- 教職員研修を充実させる一方、関係機関と連携しながら学校人権教育の充実を目指し、児童虐待防止教育＊や男女共同参画の視点に立った教育を推進します。

④生徒指導・教育相談の充実

- 家庭や児童相談所、警察署などと連携を強めながら小・中連携推進事業を充実させ、非行防止教室や生徒指導研修の内容の充実に取り組みます。

⑤体力の向上と学校体育活動の推進

- 新体力テスト＊の結果を踏まえて学校体育の充実を図り、運動部活動の充実に努めるなど、子どもたちの体力向上に取り組みます。

⑥健康の保持・増進

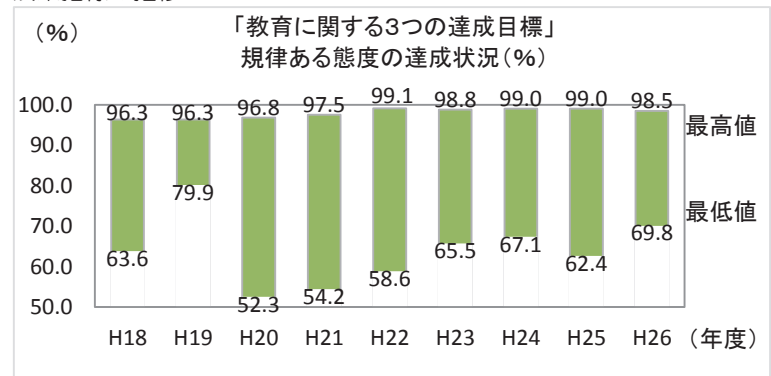
- 健康に関する理解や自らの健康を管理し、改善していく能力を身に付けさせるとともに、食に関する知識と食習慣を指導し、正しい食生活を実践できる児童生徒を育成します。

⑦小学校と幼稚園・保育園の連携の推進

- 子どもの発達や学びの連続性を踏まえた学校教育を推進するため、小学校、幼稚園、保育園の円滑な接続を推進します。

指標	「教育に関する3つの達成目標※」規律ある態度の達成状況	
朝霞市「教育に関する3つの達成目標※」の効果の検証における、「規律ある態度」のアンケート結果における平均正答率		
現状値（年度）	H32 年度目標値	H37 年度目標値
69.8～98.5% （H26 年度）	小・中学校とも全項目に おいて 85%を上回る	小・中学校とも全項目に おいて 86% を上回る

成果指標の推移



資料：教育指導課

（２）確かな学力と自立する力の育成 主担当課：教育指導課

①確かな学力の育成

- 各種学力調査などの結果を踏まえ、指導方法の工夫・改善に努め、教育課程の適切な編成・実施・評価を進めます。

②進路指導・キャリア教育*の推進

- 家庭や関係機関と連携しながら、子どもたちが将来の夢や目標を持てる進路指導・キャリア教育*を展開します。

③伝統と文化を尊重し国際性を育む教育の推進

- 小学校専任外国人講師、中学校英語助手を活用し国際理解教育を充実させるとともに、関係機関と協力しながら、我が国の伝統と文化に関する学習を推進します。

④学校ICT*を活用した情報教育の推進

- 学校ICT*の環境整備に努めるとともに、教職員の指導技術の向上を図り、情報教育を推進します。

⑤環境教育の推進

- 地域の環境を生かした環境教育を推進し、環境の保全に向け、主体的に行動する力を育みます。

⑥ボランティア・福祉教育の推進

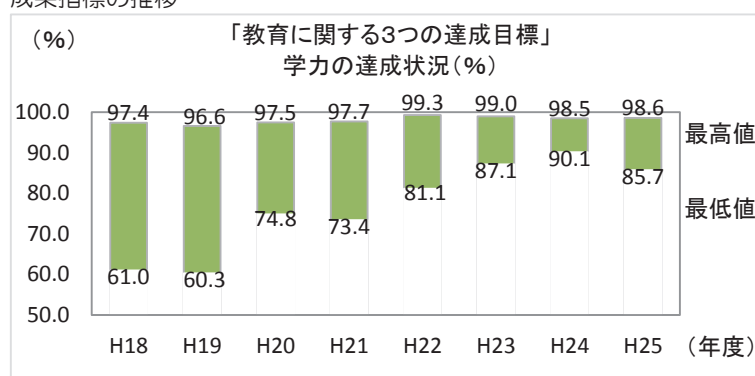
- 家庭や地域の協力も得ながら、体験を生かしたボランティア・福祉教育の充実に努めます。

⑦特別支援教育の推進

- 通級指導教室*の活用など個別の支援体制の整備・充実に努めます。適正な就学を目指した就学支援の充実に努めるとともに、インクルーシブ教育システム*の構築を目指しノーマライゼーション*の理念に基づく教育を推進します。

指標	学習状況調査の達成状況	
小学校6年生と中学校3年生を対象に実施される、全国学力・学習状況調査における各A問題における平均正答率		
現状値（年度）	H32 年度目標値	H37 年度目標値
小学国語 74.1% 小学算数 78.8% 中学国語 80.2% 中学数学 67.3% (H26 年度)	全国平均値を上回る	全国平均値を上回る

成果指標の推移



注：平成 25 年度までは「教育に関する3つの達成目標*」学力の達成状況を指標として採用

資料：教育指導課

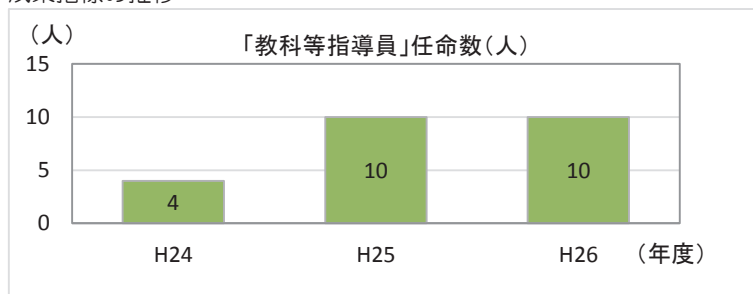
(3) 質の高い教育を支える教育環境の整備充実 主担当課：教育総務課、教育指導課

①教職員の資質・能力の向上

- 各教科の研究開発や校内研修、教科等指導員※制度を充実させ、教職員の資質・能力の向上を図ることにより質の高い教育環境の拡充に努めます。

指標	「教科等指導員※」任命数	
	経験もあり、小・中学校の教科・領域において指導のリーダーとなる知識や技能を持つ指導員	
現状値（年度）	H32 年度目標値	H37 年度目標値
10 人 (H26 年度)	12 人	12 人

成果指標の推移



注：教科等指導員※制度は平成 24 年度より運用開始であるため、平成 23 年度以前はデータなし

資料：教育指導課

②子どもたちの安全・安心の確保

- 児童生徒の安全・安心の向上を図るため、学校内での活動のほか地域や関係機関と連携し、地域ぐるみの学校安全体制の整備を推進します。

③快適な教育環境の整備充実

- 安全・安心で充実した教育環境で学習ができるよう学校施設や教材・図書を整備を図るとともに、経済的な理由などにより就学が困難な児童・生徒・学生やその保護者に対し必要な援助を行います。

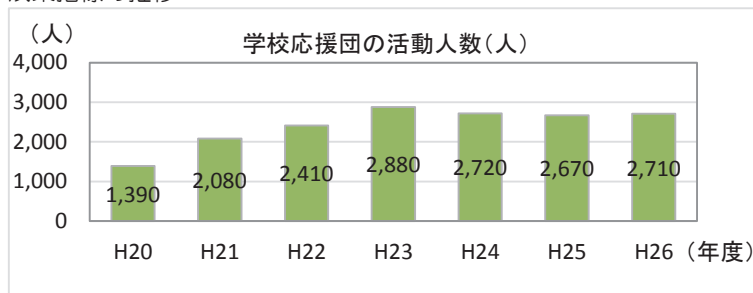
(4) 学校・家庭・地域が連携した教育の推進 主担当課：教育指導課

①学校・家庭・地域が一体となった教育力の向上

- 関係課と協力して、ボランティア団体等に働きかけ、地域の人的資源の活用に努めます。
- 開かれた学校を目指して学校応援団※の活動を充実させ、学校・家庭・地域の連携を強化し、特色ある学校づくりを推進します。

指標	学校応援団※の活動人数	
	市内各小・中学校で 1 年間に活動した学校応援団※の総人数	
現状値（年度）	H32 年度目標値	H37 年度目標値
2,710 人 (H26 年度)	3,000 人	3,200 人

成果指標の推移



注：現行内容の調査は平成 20 年度から実施されたため、平成 19 年度以前はデータなし

資料：教育指導課

2 生涯学習

- (1) 生涯学習活動の推進
- (2) 学習しやすい環境整備の充実（公民館）
- (3) 学習しやすい環境整備の充実（図書館）
- (4) 学習しやすい環境整備の充実（博物館）

現状と課題

- 人口の流入流出が激しい本市では地域コミュニティの希薄化が進んでおり、ネットワークづくりを進めるために市民同士や学校、地域と連携を図り、生涯学習を充実させていく必要があります。さらに、学習意欲の高い豊富な人材を活かし、リーダーとなる人材の育成を支援していくことが求められています。
- 公民館、図書館、博物館の各施設は、地域の生涯学習の場として多くの市民に利用されていますが、今後さらに社会的背景を考慮しながら、各施設の在り方を検討していくことが求められています。
- 生涯学習活動拠点としての教育施設の環境整備に努め、利用者が安全・安心に利用することができるよう、計画的に修繕などを進め、有効かつ効果的な運営を行っていきます。

目指す姿

市民の学習ニーズに応えた学習、文化活動など、学習情報の提供や活動が充実され、「いつでも」、「どこでも」、「誰でも」が学べるまちを目指します。

具体的な施策

(1) 生涯学習活動の推進 主担当課：生涯学習・スポーツ課

①生涯学習推進体制の充実

- 各種計画や事業の進捗状況を適切に把握するとともに、全庁的な生涯学習推進体制の充実を図ります。また、市民の生涯学習活動への積極的な参加を促進し、地域における学びのネットワークづくりを支援します。

②学習情報の提供と学習機会の充実

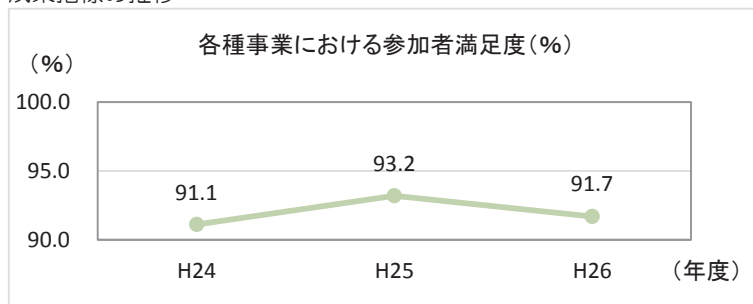
- 誰もが分かりやすい学習情報の提供に努めるとともに、市民の持つ知識や技能、教育機関、民間企業などの持つ教育機能など地域における教育力を生かし、学習機会の充実に努めます。

③団体、学習グループの支援とリーダーの育成・活用

- 市民による自主的な活動を支援し、学習の中心となる指導者などの人材の育成と活用を進めます。また、公民館、図書館においては、主催事業などの機会に市民団体や指導者などの活躍の場を設け、市民が中心となった生涯学習活動の推進に努めます。

指標	各種事業における参加者満足度	
生涯学習自主事業における満足度		
現状値（年度）	H32 年度目標値	H37 年度目標値
91.7% (H26 年度)	94.0%	95.0%

成果指標の推移



注：平成 23 年度以前はデータなし

資料：生涯学習・スポーツ課

関連する個別計画： 第2次生涯学習計画（平成19年度～平成28年度）
第2次生涯学習計画後期基本計画（平成24年度～平成28年度）
第2次朝霞市立図書館サービス基本計画（平成28年度～平成32年度）
朝霞市子ども読書活動推進計画（平成24年度～平成28年度）

（2）学習しやすい環境整備の充実（公民館） 主担当課：中央公民館

①サービスの充実

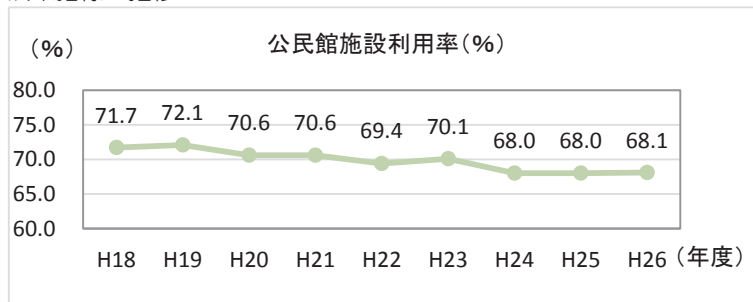
- 社会教育関係団体の活動に適切な支援を行うとともに、公民館運営に利用者の声を反映し、サービスの充実に努めます。

②施設管理の充実

- 計画的に修繕を進めるなど、誰でも快適に利用できる施設管理を推進します。

指標	公民館施設利用率	
公民館 6 館の年間利用率（貸館）		
現状値（年度）	H32 年度目標値	H37 年度目標値
68.1% （H26 年度）	69%	70%

成果指標の推移



資料：中央公民館

（3）学習しやすい環境整備の充実（図書館） 主担当課：図書館

①サービスの充実

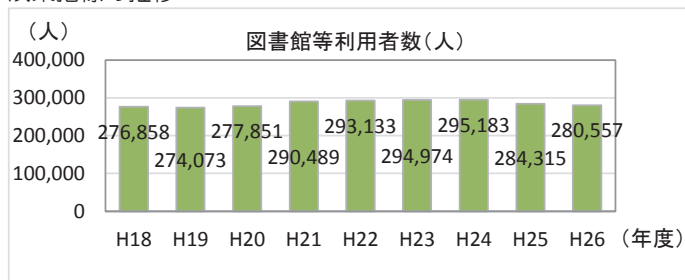
- ニーズの把握に努め、全ての市民が利用しやすい施設、自らが学ぶための施設及び情報提供するための施設として図書館サービスの充実に努めます。

②施設管理の充実

- 計画的に修繕を進めるなど、誰でも快適に利用できる施設管理を推進します。

指標	図書館等利用者数	
図書館本館、北朝霞分館、公民館図書室の年間利用者数		
現状値（年度）	H32 年度目標値	H37 年度目標値
280,557 人 （H26 年度）	285,000 人	286,000 人

成果指標の推移



資料：図書館

（4）学習しやすい環境整備の充実（博物館） 主担当課：文化財課

①サービスの充実

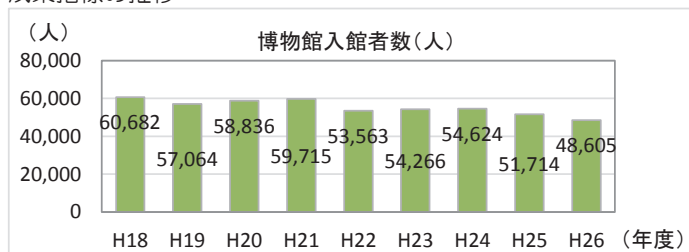
- 郷土の歴史を語る様々な文化財を収集・保存し活用を図る生涯教育の場として、博学連携事業を始めとした各種事業を展開し、サービスの充実に努めます。

②施設管理の充実

- 計画的に修繕を進めるなど、誰でも快適に利用できる施設管理を推進します。

指標	博物館入館者数	
博物館に見学を訪れた人や講座などに参加した人の数		
現状値（年度）	H32 年度目標値	H37 年度目標値
48,605 人 (H26 年度)	53,500 人	54,000 人

成果指標の推移



資料：文化財課

3 スポーツ・レクリエーション

- (1) スポーツ・レクリエーション※活動の推進
- (2) スポーツ施設の整備充実

現状と課題

- スポーツ・レクリエーション※は、健康でいきいきとした生活を送るために欠かせないものであることから、各種事業の実施に当たっては、様々な広報媒体を活用して積極的にPRしていく必要があります。また、活動場所としての公共施設にも限界があるため、地域資源の活用が更に求められています。
- 指導者の高齢化、人材不足が進んでいることから、新たな指導者の育成が必要です。
- 各施設とも老朽化が進んでいることから、安全・安心の観点からも、計画的な施設整備が求められています。

目指す姿

スポーツ・レクリエーション※施設、事業が充実し、新たな指導者が育ち、市民がいつでもどこでも気軽にスポーツ・レクリエーション※に親しめるまちを目指します。



朝霞市民体育祭

具体的な施策

（１）スポーツ・レクリエーション※活動の推進 主担当課：生涯学習・スポーツ課

①地域全体での推進体制の充実

- 市民の誰もが、いつでも、どこでも気軽にスポーツ・レクリエーション※活動に取り組めるよう、スポーツ関係団体、学校、大学、民間などのほか、庁内においても関連部署とのさらなる連携を図ります。

②活動情報の提供の充実

- 広報紙、ホームページのほか、様々な情報伝達的手段を活用して情報提供の充実を図ります。

③スポーツ事業の充実

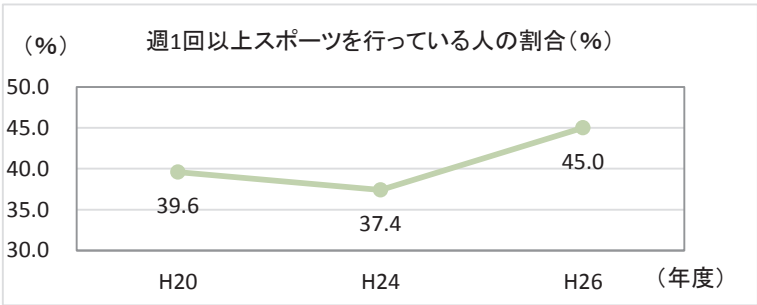
- 一人でも多くの市民がスポーツに親しむ機会が増えるよう、利用者などの声も参考に市民体育祭や市民スポーツ教室などの各種事業の充実を図ります。

④団体、指導者の育成・支援と交流の促進

- スポーツ指導者の資質向上を図るため研修会を実施するほか、各団体が自主的に活発な活動が行えるよう支援します。

指標	週1回以上スポーツを行っている人の割合	
週1回以上スポーツを行っている人の割合		
現状値（年度）	H32 年度目標値	H37 年度目標値
45.0% （H26 年度）	55.0%	57.0%

成果指標の推移



注：平成 20、24、26 年度以外はデータなし
資料：生涯学習・スポーツ課

（２）スポーツ施設の整備充実 主担当課：生涯学習・スポーツ課

①施設の整備

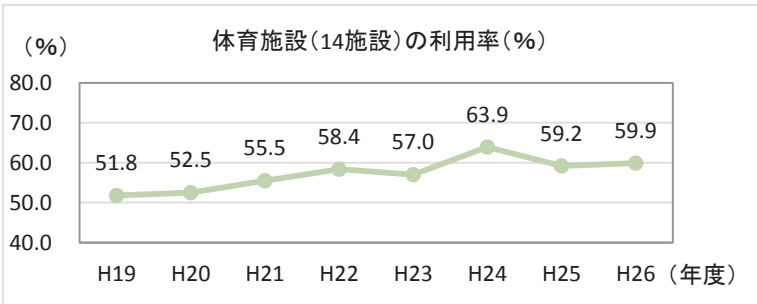
- スポーツ施設の修繕や大規模改修を計画的に進めるとともに、ユニバーサルデザインなど、誰でも安心して利用できる施設づくりを推進します。

②効率的な施設運営

- スポーツ施設の管理運営については、予約管理システムの適切な運用と利用者の声を反映した施設の管理運営を行うとともに、管理体制の効率化や計画的な維持管理に努めます。

指標	体育施設（１４施設）の利用率	
体育施設（１４施設）の利用率		
現状値（年度）	H32 年度目標値	H37 年度目標値
59.9% (H26 年度)	65.0%	67.0%

成果指標の推移



注：平成 18 年度はデータなし
資料：生涯学習・スポーツ課

4 地域文化

- (1) 歴史や伝統の保護・活用
- (2) 芸術文化の振興
- (3) 地域文化によるまちづくり

現状と課題

- 地域の文化財を保護・活用するとともに、博物館では、歴史と文化の学習拠点として各種展示事業や教育普及事業に取り組んでいます。今後は、市民が、地域の歴史や文化財について身近に接する機会を拡充し、地域文化に関する理解と認識を深めるとともに、学校との連携を密にして、子どもたちが郷土の歴史や文化を学べる機会を広げていくことが課題です。
- 市民の芸術文化活動は、芸術文化団体が、自主的に長期間活動しており、また、新たなジャンルの団体も増加していることなどから、着実に定着しつつありますが、伝統文化や芸術文化に関心を示す若者が少ないことや活動団体などの高齢化が進んでいるため、次世代への伝承や育成を図ることが課題となっています。
- 市民が主役の朝霞市民まつり「彩夏祭」は、コミュニティ協議会や実行委員会が運営する仕組みが確立されています。人口の流入が多いベッドタウンである本市は、地域コミュニティの意識が希薄になることが懸念されるため、今後も「彩夏祭」や他のイベントなどを通して市民の意識が共有される機会の創出が課題です。

目指す姿

市民が芸術文化活動の成果を発表できる場と機会を得ているとともに、「彩夏祭」などの地域イベントが市民の手で継続して開催され、地域文化が継承されており、郷土に対する愛着や誇りを持てるまちを目指します。

具体的な施策

(1) 歴史や伝統の保護・活用 主担当課：文化財課

①文化財の保護・活用

- 市内の文化財に関する調査を行い、その保護・PRに努めるとともに、重要文化財旧高橋家住宅や県指定文化財柁塚古墳や市指定文化財湧水代官水などの文化財の活用を通じて、朝霞の貴重な文化財が市民共有の財産であるという意識を醸成します。

②郷土芸能の保護・支援

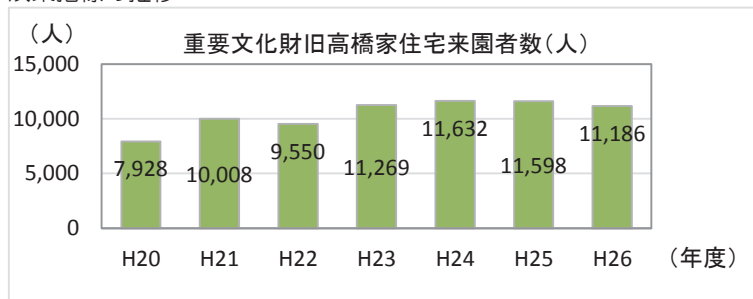
- 溝沼獅子舞や根岸野謡などの郷土芸能を幅広い広報活動を通じ市民の関心を高めるとともに、後世に残していくための支援や発表の場の充実に努めます。

③博物館資料活用

- 郷土の歴史を語る様々な資料を調査・収集・保存し、常設展示や企画展示などの各種展示事業や教育普及事業において活用します。

指標	重要文化財旧高橋家住宅来園者数	
重要文化財旧高橋家住宅に訪れた人や講座などに参加した人の数		
現状値（年度）	H32 年度目標値	H37 年度目標値
11,186 人 (H26 年度)	11,800 人	12,000 人

成果指標の推移



注：平成 19 年度以前はデータなし、平成 20 年度は 10 月以降の人数を記載

資料：文化財課

(2) 芸術文化の振興 主担当課：生涯学習・スポーツ課

①芸術文化の活動の充実支援

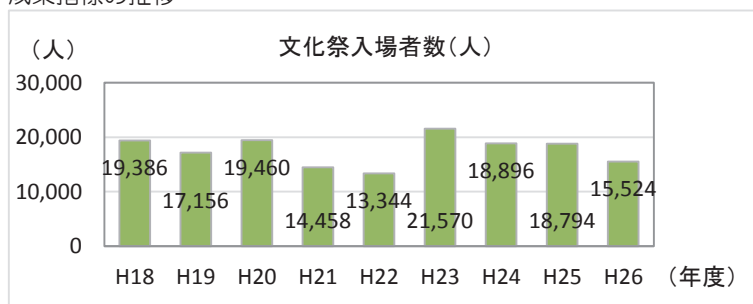
- 各種団体やグループをネットワーク化し、市民の自主的な活動の充実、活性化を支援し、芸術文化活動に関心を持つ、より多くの市民の活動を促進します。

②発表と鑑賞の機会の充実支援

- 文化祭の充実や芸術文化行事への市民参加の促進により、市民が活動の成果を発表する機会の多様化、内容の充実を支援するとともに、市民がより身近で優れた芸術文化に親しめるよう、鑑賞機会の提供に努めます。

指標	文化祭入場者数	
朝霞市文化祭の入場者数		
現状値（年度）	H32 年度目標値	H37 年度目標値
15,524 人 （H26 年度）	19,000 人	20,000 人

成果指標の推移



資料：文化財課

(3) 地域文化によるまちづくり 主担当課：地域づくり支援課

①地域文化の発信

- 朝霞市民まつり「彩夏祭」、「黒目川花まつり」、「朝霞アートマルシェ」、「どんぶり王選手権」などの地域文化や郷土芸能などを、朝霞の魅力として市内外に知ってもらうためのPRに努めます。

②地域イベントの支援

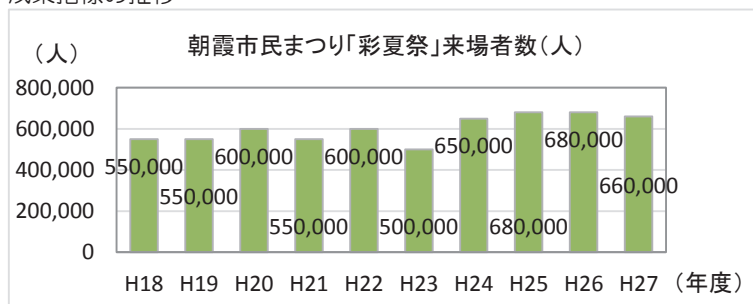
- 商工会や商店会が実施する地域活性化のためのイベントの開催を支援します。

③地域間・都市間交流の推進

- 市独自の文化を大切にするとともに、より豊かな地域文化を育みながら、地域間・都市間の交流を推進し、まちの活性化を図ります。

指標	朝霞市民まつり「彩夏祭」来場者数	
朝霞市民まつり「彩夏祭」に来場した人数（3日間合計）		
現状値（年度）	H32 年度目標値	H37 年度目標値
660,000 人 (H27 年度)	700,000 人	720,000 人

成果指標の推移



資料：地域づくり支援課（出典：朝霞市民まつり実行委員会）